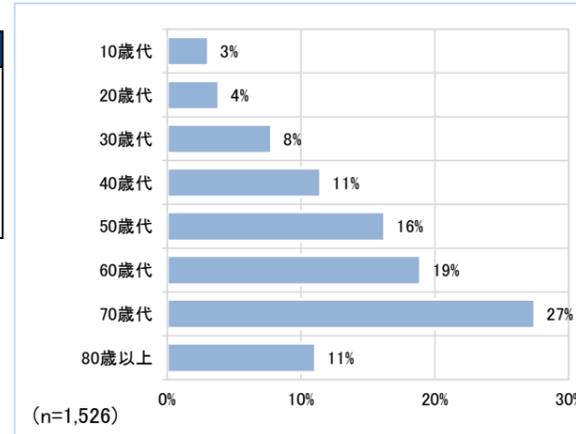


射水市の公共交通に関するアンケート調査結果(概要版)

1. 調査概要

・射水市民 3,000 世帯に対して「射水市の公共交通に関するアンケート調査」を実施した。

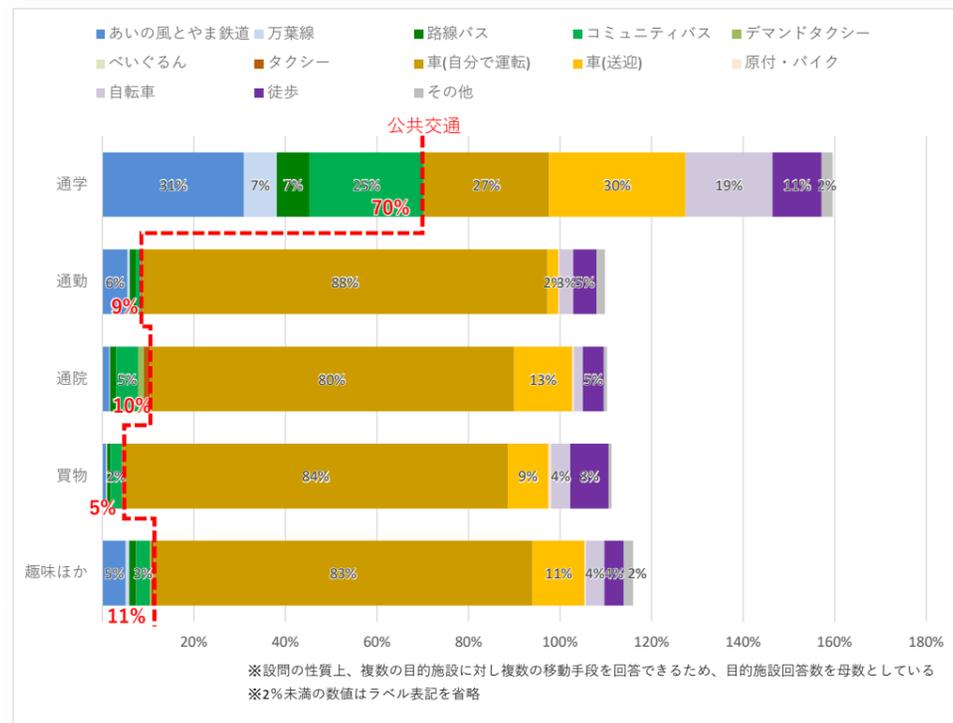
調査方法	配布・回収
<ul style="list-style-type: none"> 郵送による配布 (1世帯に3票配布) 郵送又は Web による回収 	<ul style="list-style-type: none"> 3,000 世帯配付 世帯回収数 1,035 世帯(回収率 36%) (うち紙=775 世帯、Web=260 世帯) 有効回収票数 1,565 票(1.5 票/世帯) (うち 紙=1,305 票、Web=260 票)



2. 調査結果(一部抜粋)

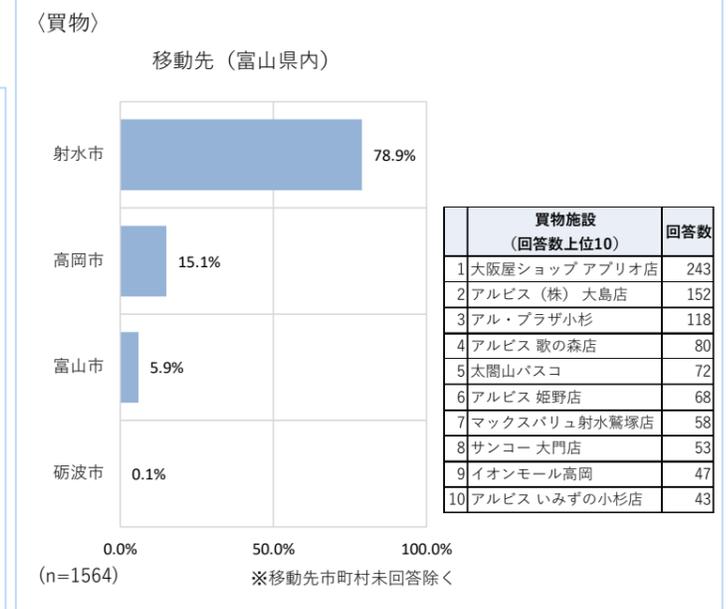
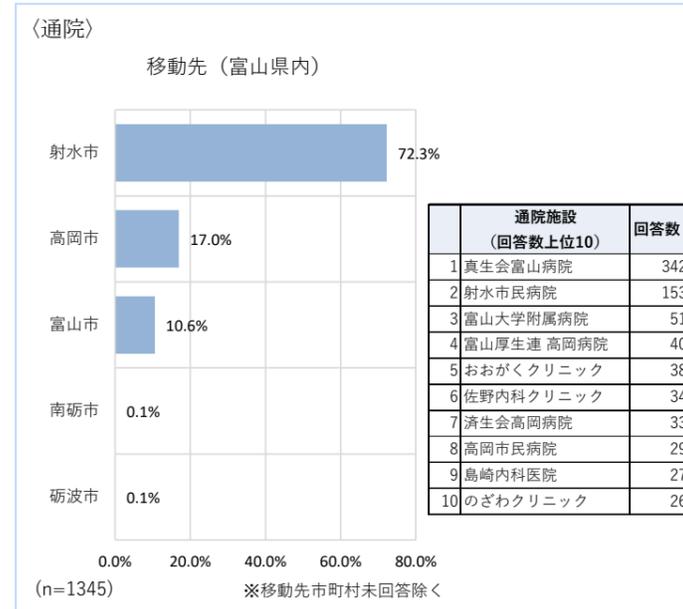
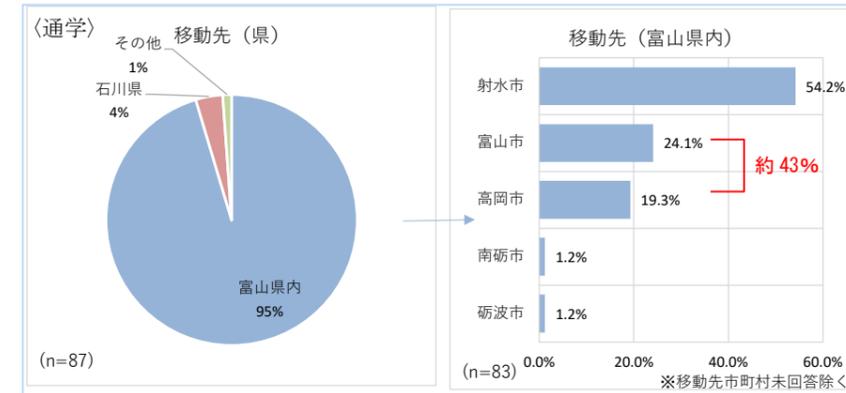
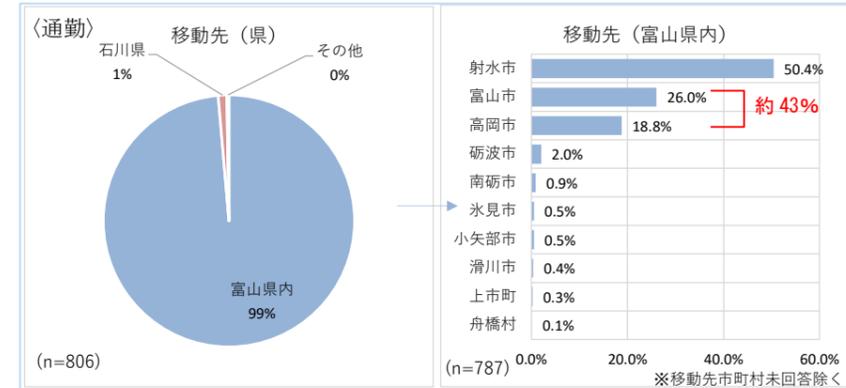
【日常生活の移動 (交通手段)】

・通学の公共交通利用は70%となっており、通学の足として、公共交通は非常に重要であるとともに、その他の移動についても10%程度と一定の需要もあるため、引き続き公共交通の確保・改善は重要であると考えられます。



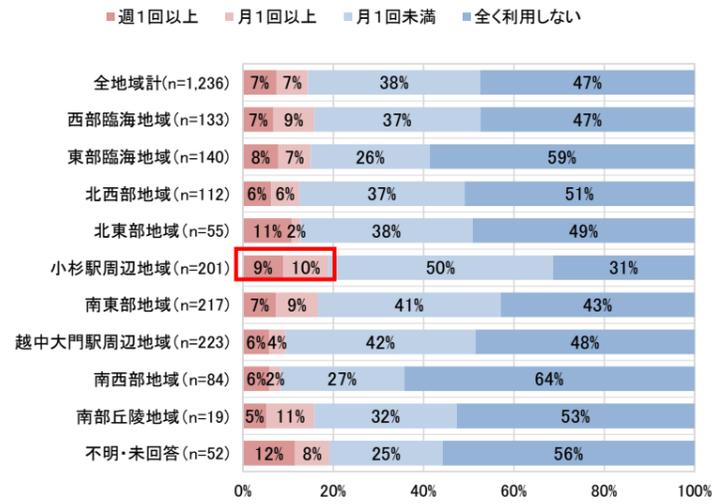
【日常生活の移動 (移動先)】

・通勤・通学については、富山・高岡方面への移動が半数弱あるため、鉄道とコミュニティバスやデマンド交通などとの接続が重要と考えられます。
・通院・買物に関しては、現在コミュニティバスが複数路線乗り入れている施設が移動先の上位(真生会富山病院、射水市民病院、アプリオ、アルビス大島店、アル・プラザ小杉等)となっており、これらは今後新しい交通体系を考えていく際にも引き続き重要な拠点とすべきと考えられます。



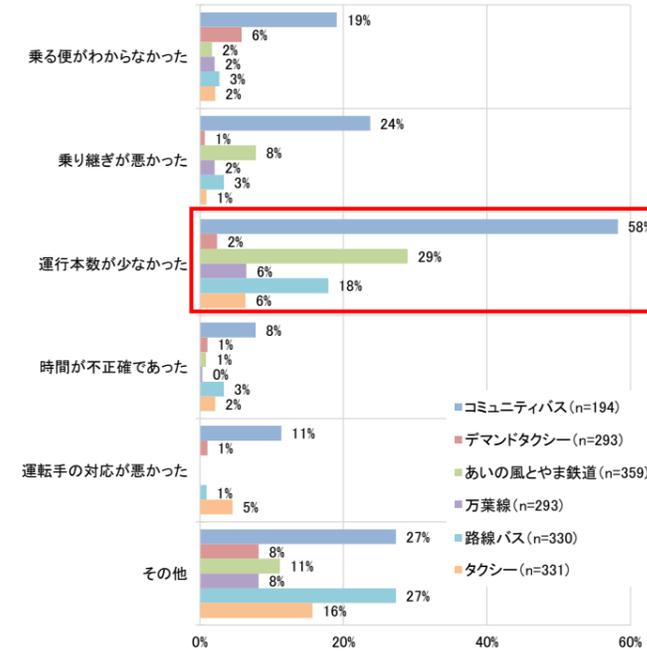
【公共交通の利用頻度】

- 公共交通全体では、利用者の1割が定期的に利用していることから、公共交通の潜在的ニーズは高いと考えられます。
- 小杉駅周辺地域は、公共交通の発着点となる小杉駅があるため、他の地域と比較して利用頻度が高くなっていると考えられます。



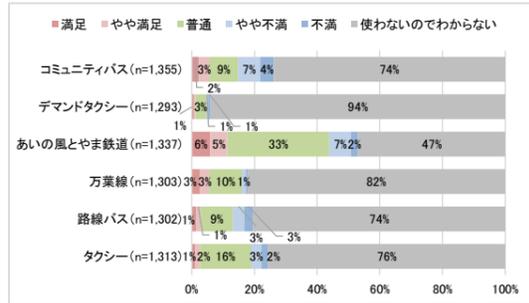
【公共交通に対する不満の理由（利用者の不満）】

- 全ての公共交通において、「運行本数が少なかった」が比較的多く寄せられています。
- コミュニティバスに関しては、他の公共交通と比較して、全ての項目で不満が高い傾向にあります。

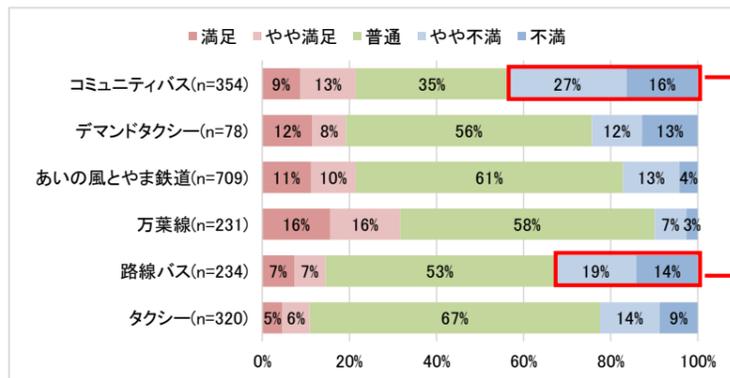


【公共交通の満足度】

- コミュニティバスと路線バスに対する不満が他の公共交通と比較して高くなっており、公共交通に対する不満の理由の「運行本数が少なかった」が原因の一つであると考えられます。



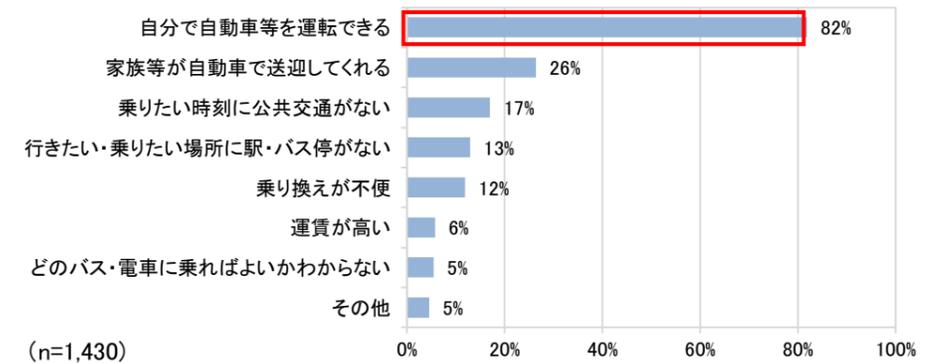
「使わないので分からない」
を除いて集計



不満度が高い

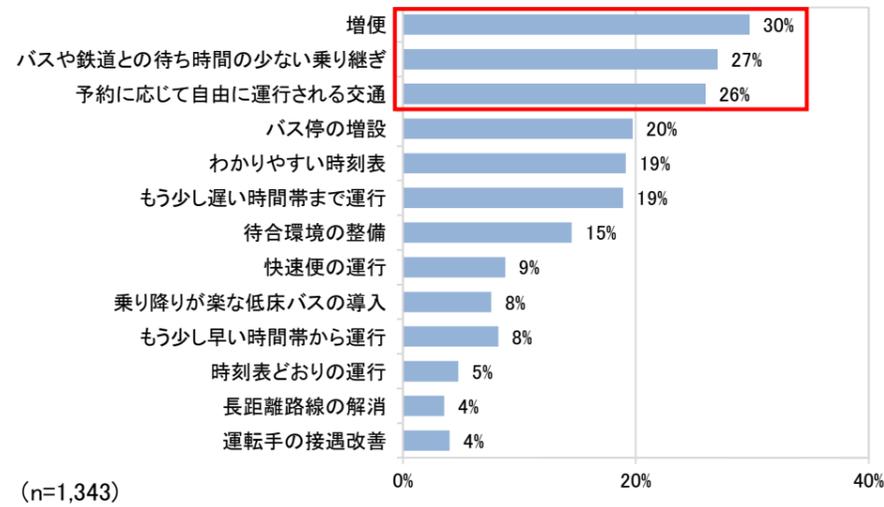
【公共交通を利用しない理由（非利用者の不満）】

- 自動車による移動が可能であるためといった消極的理由が多くなっています。非利用者に対しては、利便性を高めるだけでなく、公共交通機関をまずは利用してもらえるような意識付けが重要と考えられます。



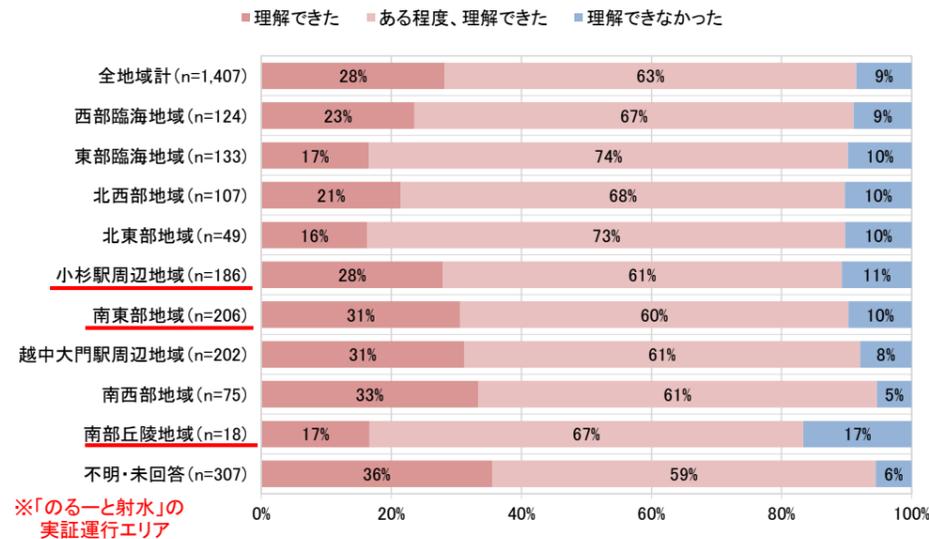
【公共交通の利用が増える工夫・改善】

・「予約に応じて自由に運行される交通」が、「増便」「バスや鉄道との待ち時間の少ない乗り継ぎ」と同程度の割合となっており、増便やスムーズな乗り継ぎだけでなく、デマンド交通による利便性の向上も期待されていると考えられます。



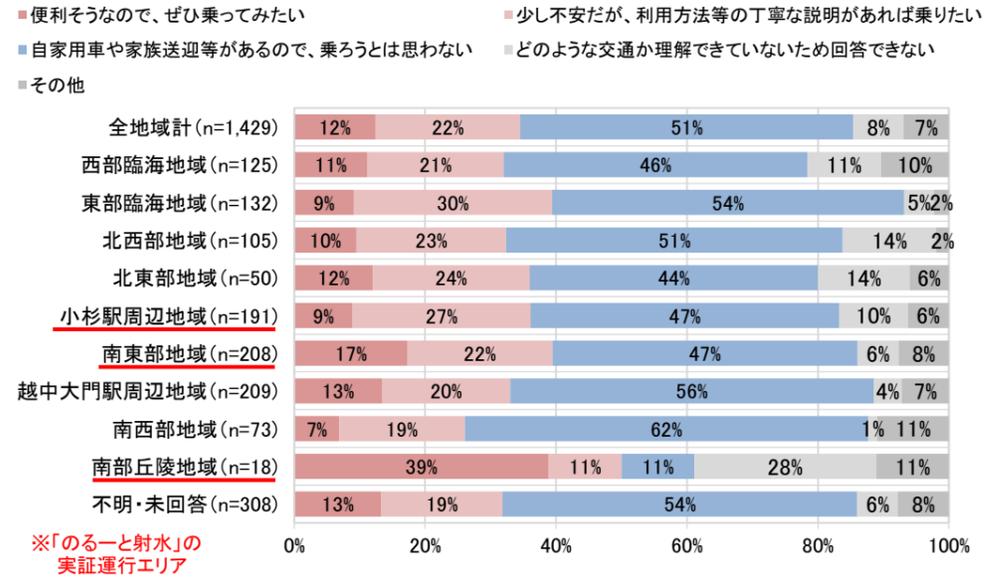
【オンデマンド交通の概要についての理解度】

・全ての地域で「理解できた」「ある程度理解できた」の合計が8割を超えており、案内文に記載した内容で、オンデマンド交通についてある程度理解することが可能であると考えられます。



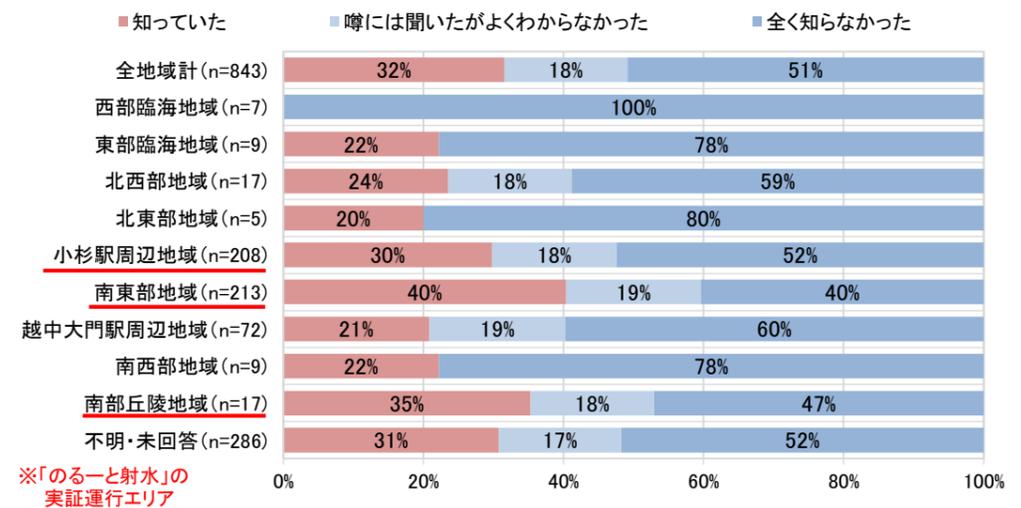
【オンデマンド交通が導入された場合の感想】

・「自家用車や家族送迎等があるので、乗ろうとは思わない」が51%となっており、オンデマンド交通の利用について消極的な意見がみられました。一方、「少し不安だが、利用方法等の丁寧な説明があれば乗りたい」が22%となっており、オンデマンド交通導入の際は説明会等が必要であると考えられます。
 ・「のるーと射水」の運行エリアであった南部丘陵地域では、「便利そうなので、ぜひ乗ってみたい」が他の地域と比較して多いため、オンデマンド交通への期待が高いと考えられます。



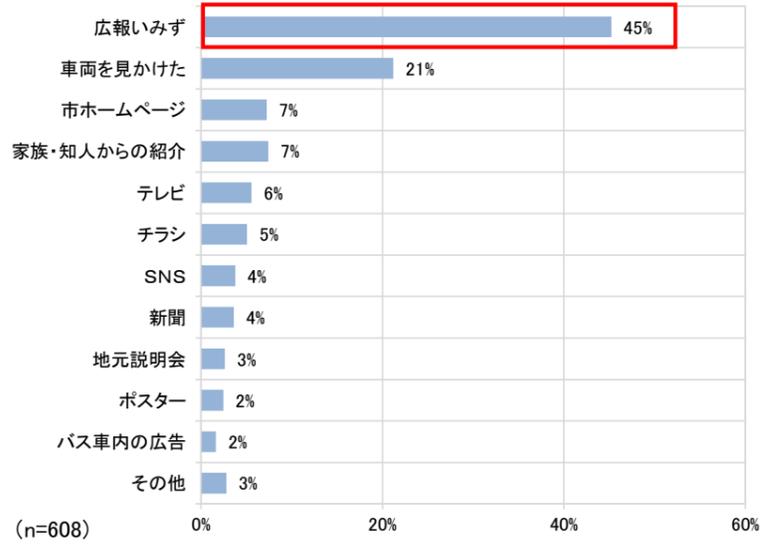
【オンデマンド交通「のるーと射水」が実証運行されていたことについての認知度】

・「のるーと射水」が実証運行されていた地域では、「のるーと射水」の認知度は3～4割と比較的高くなっています。



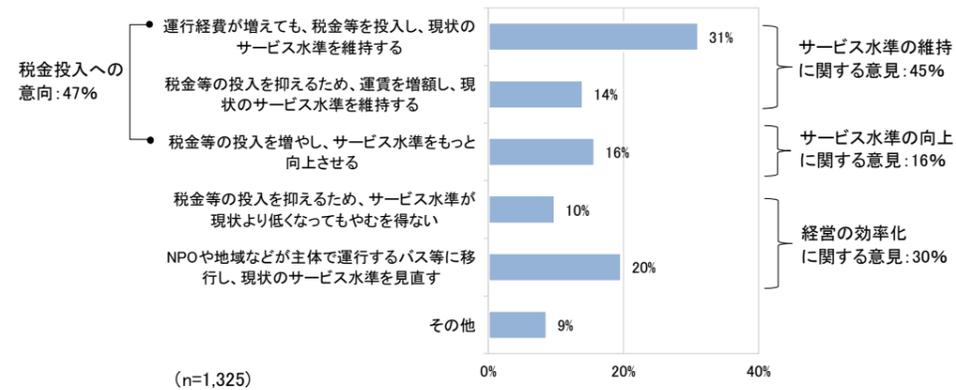
【「のるーと射水」を認知するきっかけとなった媒体】

・全ての地域区分で「広報いみず」が比較的多く挙げられており、自治会・町内会を通じて市民に配布される「広報いみず」は、市民の認知度向上に比較的有效であると考えられます。



【今後の運行経費と運行内容についての意見】

・サービス水準の維持に関する意見が45%、サービス水準の向上に関する意見が16%、経営の効率化に関する意見が30%、税金投入への意向が47%となっています。サービス水準を維持・改善しつつ、ニーズに合致した税金の投入及び経営効率化を図られるよう、運行形態を検討していくことが必要と考えられます。



3. 調査結果まとめ

まとめ

- 公共交通は通学手段として最も重要な移動手段の1つであり、その他の目的についても1割程度の利用があることから、公共交通は市民生活に必要な移動を支える重要な交通であり、市民の潜在的なニーズも高いものと言えます。また、現在コミュニティバスが複数路線乗り入れている施設が移動先の上位であることから、これらは今後新しい交通体系を考えていく（オンデマンドバスのエリア拡大等）際にも引き続き重要な拠点とすべきと考えられます。ただし、すでに公共交通の需要の高いものについては、大量輸送が可能な定時定路線のバスが必要であると考えられることから、**利用状況を分析しエリアごとに最適な公共交通手段を検討していく必要があります。**
- 公共交通の工夫・改善点として、増便、乗り継ぎの改善、予約に応じた自由な運行に関する要望が同程度であることから、**増便や乗り継ぎの活用による利便性向上だけでなく、デマンド交通を活用して自由に目的地に移動することも求められていると考えられます。**一方で非利用者に対しては、まず**公共交通機関を利用してもらえるような意識付けに取り組むことが特に重要**と考えられます。
- オンデマンド交通の概要についてある程度理解されており、また丁寧な説明があれば利用したいとの意見も寄せられています。今後仮に**導入エリアを拡大していく際には、利用を希望する地域の住民に対して説明会を開催する等のサポートが必要である**と考えられます。
- 公共交通の今後の運行については、サービス水準の維持に関する意見が最も多く、次いで経営の効率化に関する意見が寄せられています。また、税金を投入することへの意向も見られることから、ある程度の公的負担によって**利用者のニーズに合致するようサービス水準を維持・改善しつつ、より効率性の高い運行形態へ継続的に改善していくことが求められている**と考えられます。